

# ファクシミリ PSC (AH-02)

2004.3.1 AH-02  
2002.11.14 制定

注) この基準は、エコリーフプログラム実施用に作成されたものです。無断で、一部又は全部を、他の目的で使用することを禁止致します。

No.	大項目	中項目	小項目	取り決め事項
1	PSC 設定 の前提	製品	定義	ファクシミリは家庭、オフィスなどで汎用に使用する通信機で、適用技術が感熱・熱転写方式(以下 SP と記す)、インクジェット方式(以下 IJ と記す)及び電子写真方式(以下 EP と記す)のモノクロ、カラープリント方式を対象とする。
2			範囲	最小販売単位(個包装と個装箱)に含まれる本体と包装一式。但し、上記形態で製品機能が満たされない場合は、別途機能を満たす機器を含めること。
3		ステージ	範囲	全ライフサイクルステージを対象とする。
4	製品データ シート(LCI 入力データ)	製造ステージ情報(製品情報)	製品材料 または 原料構成	<p>1) 部品等 A (実施ガイドライン“3.4項”参照)に区分するものは、下記のものとする。</p> <p><u>SP プリントの場合</u> 感熱; 感熱ヘッド、感熱紙 但し、感熱紙は、感熱処理加工エネルギーのデータを収集する。 熱転写; 感熱ヘッド、インクリボン</p> <p><u>EP プリントの場合</u> 感光体; 但し、 1. 素管の加工は、 ・ 自社で収集した加工エネルギーのデータを使用する。 (自社でデータが取れる場合) ・ 自社でデータが取れない場合は No.14 参照。  2. 素管以降塗布までの加工は、自社で収集した加工エネルギーのデータを使用。</p> <p>トナー; 但し、加工は、自社で収集した加工エネルギーのデータを使う。</p> <p>キャリア; 但し、上記トナーと同様の条件付とする。</p> <p><u>IJ プリントの場合</u> プリントヘッド; 但し、加工は自社で収集した加工エネルギーのデータを使用する。</p> <p>インク; 但し、 1. インクの組成は、全て水として扱い、「水」の原単位を使うこととするが、個別原単位の使用を制限するものではない。 2. 加工は、自社で収集した加工エネルギーのデータを使う。</p> <p>部品等 A の素材は、MSDS の材料レベルまで遡る。</p>

No.	大項目	中項目	小項目	取り決め事項
				<p>2) 資源投入量は製品となった段階の材料質量とし、製品質量の90%以上の材料を種類別に分類、残りは比例配分し100%換算する。</p> <p>3) 製品データシートに記載する材料名は、“普通鋼、SUS、アルミニウム、その他金属、熱可塑性樹脂、熱硬化性樹脂、ゴム、ガラス、紙、半導体基板、木材、水”の12項目とする。この12項目以外のものは原単位名を記載する。</p> <p>4) オープンリサイクル/リユース          オープンリサイクル/リユースを含む場合は次の項目に注意して各社で妥当と判断されるシナリオを設定して計上できる。          なお設定根拠の妥当性は検証の対象となる。          「間接影響」範囲とする工程          「間接影響」範囲内の控除・負荷</p>
5	製品データシート(LCI入力データ)	製造ステージ情報(製造サイト情報)	投入・消費・排出される物質とエネルギー	<p>投入・消費項目：          電力、A 重油、軽油、灯油、ガソリン、LNG(都市ガス)、LPG、都市用水、工業用水、地下水          但し、部品等 A に関する加工エネルギーは、MSDSの材料レベルまでの負荷を遡る。</p> <p>排出項目：特定せず。          但し、各社で重要と判断したものを記載する。</p> <p>投入物質(原材料・エネルギー)の輸送負荷は計上しない。</p> <p>副産物・副資材は計上しない。          製造サイトで投入廃棄されるもので、製品と共に出荷されない資材を副資材と定義する。</p>
6		物流ステージ情報	製品の輸送条件	<p>1) ユーザーまでの輸送手段、積載率は、申請各社が設定するモデルに基づくこととする。</p> <p>2) 国内輸送距離(使用場所までの輸送)は、100kmとして算定することとする。海外から国内への製品輸送負荷は、製造サイトからの陸上および海上輸送負荷を計上する。</p> <p>3) 本体の包装の廃棄・リサイクルは、No.8の「廃棄・リサイクル」に入れる。</p>

No.	大項目	中項目	小項目	取り決め事項
7	製品データシート(LCI入力データ)	使用ステージ情報	製品の使用条件	<p>1) 使用条件</p> <p>パーソナル用機種の場合標準原稿はA4チャートで業界通称ITUT - No. 1チャート又は黒率3%以上の原稿とする。 送信 15 枚 / 月、受信 15 枚 / 月とする。使用期間は5年間とする。但し、使用時以外は、24 時間通電待機しているものとする。又、1 年は 365 日とし閏年は含まない。</p> <p>ビジネス用機種の場合 標準原稿はA4チャートで業界通称ITUT - No. 1チャート又は黒率3%以上の原稿とする。 送信 5 枚 / 時、受信 5 枚 / 時、1 日 8 時間、1ヶ月 20 日間稼働とする。使用期間は5年間とする。但し、1年 365 日( 閏年は含まない)、5 年間を想定して、使用時以外は、24 時間通電待機しているものとする。</p> <p>2) 使用ステージで必要となる用紙は、負荷計上の対象には含まない。但し、感熱紙の感熱処理加工エネルギーのデータは含めることとする。</p> <p>3) 定期交換部品、消耗品の使用回数 対象;設計時の計画、又は実績に基づく。 回数;上記に基づく使用回数(パーソナル用機種、ビジネス用機種...5年間)で、端数切り上げの整数とする。</p> <p>輸送;製造サイトから使用場所までの輸送において、上記に基づくモデルを各社で設定する。</p> <p>4) 定期交換部品、消耗品の廃棄・リサイクル条件は、No.8の「廃棄・リサイクル」に規定する。</p>

No.	大項目	中項目	小項目	取り決め事項
8	製品データシート(LCI入力データ)	廃棄・リサイクルステージ情報	製品の廃棄・リサイクル条件	<p>1) シナリオの設定 別紙「使用後製品の廃棄・リサイクルシナリオ」を採用する。</p> <p>回収ルートは、各社で輸送を含むシナリオを設定。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リユースシナリオ</li> <li>・リサイクルシナリオ</li> </ul> <p>材料別リサイクル率( = )は、各社で設定する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非リユース/非リサイクルの産廃処理シナリオ</li> </ul> <p>非回収ルートは「一廃処理シナリオ」(別紙参照)を採用。</p> <p>2) 控除のシナリオ 別紙「使用後製品の廃棄・リサイクルシナリオ」を採用。</p> <p>3) リサイクル、リユース可能性の判定基準 判定基準は各社で、個別に定める。</p> <p>4) 製品、包装材、消耗品、交換部品の回収率 1を採用する場合は、パーソナル用機種は、1 = 0% とする。ビジネス用機種は、1 = 40% とする。又は、実績に基づいた値( 2)でも良い。</p> <p>5) 製品のリユースの場合 再使用に回すための輸送を含むリユース処理負荷を加算し、当該再使用部品の素材製造負荷並びに加工負荷を控除する。(リユース処理負荷は実測を原則とする。) 各社の実績値あるいは設計値に基づき、使用期間 5 年間で過ぎて5年単位でリユースする回数 N1を設定する。N1は整数とする。(例、10~14 年使用する部品は N1 = 1、15~19 年使用する部品は N1 = 2) また負荷の計算は、上記 N1を使って、</p> <p>部品リユースの控除量 = “リユース部品の素材製造負荷並びに加工負荷” × “製品回収率 1(又は 2)” × “リユース控除率 N1/(N1+1)”</p> <p>5年以内にリユースする部品は処理負荷を計上すること。</p> <p>6) 消耗品や交換部品リユースの場合 対象品の寿命の中でのリユース回数を N2、5 年間での使用個数を n とし、端数は切り上げて整数とする。また負荷の計算は、上記 N2 及び n を使って、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部品負荷 = “部品 1 個の製造までの負荷” × “5 年間での使用個数(n)”</li> <li>・部品リユースの控除量 = “各社の設計時点で計画したリユース可能量” × “部品回収率 1(又は 2)” × “リユース控除率 N2/(N2+1)” × “5 年間での使用個数(n)”</li> <li>・リユース処理負荷 = “部品 1 個のリユース処理負荷” × “部品回収率 1(又は 2)” × “5 年間での使用個数(n)”</li> </ul> <p>7) オープンリサイクル/リユース オープンリサイクル/リユースを含む場合は次の項目に注意して各社で妥当と判断されるシナリオを設定して計上できる。なお設定根拠の妥当性は検証の対象となる。 「間接影響」範囲とする工程 「間接影響」範囲内の控除・負荷</p>

No.	大項目	中項目	小項目	取り決め事項
9	製品環境 情報データ シート (PEIDS)	インベントリ 分析	LCI 計算式	紙木については部品等 A 扱いとし、加工及び組立負荷は計上しない。  オープンリサイクル/リユースを含む場合は間接影響と直接影響に分離して計算し、このうち間接影響分を「リサイクル効果」として表現する。PEIDS では間接影響の合計を「リサイクル効果」欄に記載し、リサイクル効果の内訳を PEIDS の解説欄に記載する。
10		インパクト評 価	カテゴリ追加	PEIDS から「オゾン層破壊」、「光化学オキシダント」、「富栄養化」の項目を削除する。
11	内訳データ シート (製品デー タシート関 連)	データ加工	アロケーション	統一せず、各社で適宜決定する。
12		データ収集	収集範囲	データを把握出来ない場合は、設計時又は計画時の条件を含むデータ(含む原単位)で代用しても良い。
13			カットオフルール	組立負荷等についてカットオフを適用する場合は、その旨を明記し、かつその理由を明確にする。
14	内訳データ シート (PEIDS 関 連)	データベ ース	原単位の選定	1) 各社が決めた購入部品の組立については、原単位「部品組立」を採用。 2) 感光体の素材は、原単位「A」板」を採用。 3) 酸化鉄(使用する場合)については、原単位「冷延鋼板」を採用。 4) 感光体素管の加工は、原単位「非鉄プレス」を採用。 5) インク組成は、原単位分類名「用役(水)」を採用。 6) 感熱ヘッドのセラミックスは原単位「ガラス」を採用。  なお上記原単位名は、「原単位リスト」参照。上記は個別原単位の使用を制限するものではありません。
15			原単位の追加	なし
16			特性化係数の追加	なし
17	製品環境 情報	製品仕様		1) 記録方式 2) パーソナル用、ビジネス用の区分 3) 最大記録サイズ 4) 最大原稿サイズ 5) 相互交信 6) その他検証対象となる機能

No.	大項目	中項目	小項目	取り決め事項
18	製品環境情報	データ公開内容		<p>1) 記載項目 必須項目として規定(ガイドライン)されている、「温暖化負荷、酸性化負荷、エネルギー消費量」を記載することとし、選択項目の7項目(ガイドライン)は記載自由とする。</p> <p>2) 対象ライフサイクルステージ 記載自由とする。</p> <p>3) 使用条件の設定 使用期間(5年間)、送信枚数(枚)、受信枚数(枚)、を記載する。また、使用時の用紙の環境負荷について下記を参照して記載する。なお、使用ステージで必要となる用紙は、負荷計上の対象には含んでいません。但し、感熱紙の感熱処理加工エネルギーのデータは含めています。</p> <p>4) 表現方法 文章、表、グラフいずれの選択も自由とする。</p> <p>オープンライフサイクル/リユースを含む場合は</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「リサイクル効果」は実際に発生した負荷とは統合せずに、独立してステージ毎に点線で表示する。</li> <li>・リサイクル効果の内訳は欄外に記載する。</li> </ul>
19	その他環境関連情報	選択記載項目		<p>当該製品に関係する下記のを記載できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. タイプ および/又はタイプ の環境ラベル</li> <li>2. ISO14001 認証の取得</li> <li>3. 国または工業会等の認証・認定・表彰</li> <li>4. 有害物質</li> </ol>

